

すくすく泉事業採択・評価委員会 議事要録

○日 時	令和元年 7 月 22 日 (月) 午後 6 時 30 分～ 7 時 30 分
○場 所	武蔵野芸能劇場 小ホール
○出席委員	榎田委員長、吉田副委員長、松田委員、藤野委員、鶴川委員、伊藤委員
○事務局	子ども政策課長、子ども育成課長 他

1 開会

事務局より資料確認

2 議事

(1) 平成 30 年度事業実績について

(2) 平成 30 年度第 1 回・第 2 回 (プロポーザル) 委員会意見への対応状況について

※運営団体 NPO 法人いずみの会が入場

<平成30年度事業実績、平成30年度第1回・第2回 (プロポーザル) 委員会意見への対応状況について>

いずみの会より以下の説明があった。

【いずみの会】

いろいろなご提案を申し上げたところ、もう一度5年間というお話をいただき、感謝している。

しかし問題点があり、保育士をずっと募集しているが、プロポーザルが5年間というのがネックになっている。5年間の定期雇用になってしまうからだ。現在の保育士はパートが多く、シフトがかぶってしまったりして人件費がかかる。常勤の保育士を雇うことにより、補助金をより有効に活用できるのではないかと考えている。給料と5年間の縛りをどう上手く解決するかが課題となっている。いずれにしても、期待に応えられるように5年間がんばりたい。

(平成 30 年度事業実績について)

・子育てひろば事業、一時預かり事業

平成 30 年度も様々な親子が集い、日常の中で心地の良い居場所となるよう活動してきた。育児不安の支えとなり、地域への入り口としての役割も果たしてきた。特に多様な子育てについて、学び、工夫し、それぞれの抱える不安に寄り添えるひろばにするために話し合ってきた。

発達障害のお子さんを育てている親御さんが、ご自身も支援する側になりたいという思いがあり、ひろばで利用者に向けてお話しする機会も作った。

また、気後れして広場になかなか来られない親子がいることを知り、はじめの一步を付き添ってもらおう活動も始めている。

講座やイベントなども数年やってみて人気のあるものや必要性のあるものは定番化しているが、そこに父親向けのプログラムも加えた。参加者の意見をとりいれてマイナーチェンジしながら進んでいる。

ボランティアさんの力をお借りするプログラムは、具体的には読み聞かせや単発のおやつ作りをした。参加した親子は地域に温かく迎え入れられていることを実感し、ボランティアの方々も地域の次世代のために貢献する喜びを感じていただいているようだ。

毎週続けてきたママ部活「もしものいずみちゃん」だが、利用者の防災意識の向上だけでなく、9月には参加者が企画する防災イベントを実施した。それにより家族ぐるみのつながりが多くできたようで、別々の幼稚園に行ったとしても、すすくすく泉をホームとした交流があるようだ。

スタッフは、月に一度の一時預かりとひろばのスタッフの合同ミーティングに加え、ひろばスタッフだけのミーティングも行っている。日常の場の工夫、おもちゃの管理、利用者さんの情報交換やサポートの仕方の共有、講座やイベントの企画などを話し合い、利用者目線の心地よい場づくりを目指している。

30年度は、初めてひろば利用者さん100人に対するアンケートを実施した。スタッフの対応について良い評価をいただき、このように感じてもらいたい、このように利用してもらいたい、と考えている部分が利用者さんに伝わっていたことがスタッフ一同の励みになった。

ひろばだよりの発行も去年から始まった。9月から毎月発行しており、市役所や市内の親子ひろばに置いていただいている。内容は、予定表だけでなく、広場の行事や役立つ情報、スタッフの人となり等もわかるようになっていて、すすくすく泉をより身近に感じてもらえるような内容になるよう工夫している。

保育園が増えたこともあり、利用者は前年度よりやや減という結果になっているが、落ち着いて充実したひろばになってきていると思っている。

一方で、一時預かりは増えた。30年度は200人を超える登録があり、利用者も増加している。延べ利用者数が、平成29年度1708人から、1848人に増えた。予約の取り方などを工夫したので、実利用者数も増えた。自営業者の方など、お仕事の関係でヘビーユーザーもいるが、以前より多くの方が利用できるようになっている。

スタッフの動きとしては、皆が経験を積んできたこともあり、子どもと一対一ではない時間が増えた。負担は増えているが、経験とチームワークで負担感はかなり減っているように感じる。また、保育士資格の取得を目指している方も数名いる。

一時預かりでは、ひろばとの合同ミーティングのほかに、しゃべり場というフリートークの時間を設けている。スタッフ同士の子どもの情報の共有や、悩みや疑問などをなんでも話し合えるような場として、毎月行っている。

・小規模保育事業

10人の0歳から2歳児を大きな事故やトラブルなく保育できた。

要点を6点に絞ってお話する。

1点目、30年度に食育計画を策定した。給食チームと保育チームで立場・価値観の違いがあるが、どう対応するかという違いをすり合わせて策定した過程に意味があったと思っている。実践を通して改訂していきたい。

2点目、運営委員会の開催と保護者のアンケートを初めて行った。運営委員会では、保護者の代表2名、うち学識経験者が1名と、運営者の構成で行う会議を年に2回開催する。それに合わせてアンケート結果を保護者と共有した。そこから、一人一人をしっかりと見ている、と保護者から信用を得ているということがわかった。現在の延長保育料の仕組みについて分かりにくいという回答があり、それまでも検討はしていたが、保護者の意見を参考に来年度に向けて改定していくことになった。

3点目、妊婦さんや生後間もない赤ちゃんがいる保護者を対象に、保育所体験・赤ちゃん体験を実施した。すすく泉の場合は、常設のひろばにつなぐことができるようにとの意向だった。お母さんの悩みを聞くにあたって、傾聴と情報提供のバランスの難しさを感じ、スキルアップが必要だと実感した。

4点目は、日赤保育園との連携。

5点目、ひろばの親子が、保育の子どもたちがやっているように水たまりにじゃぶじゃぶ入って遊ぶ姿を見るようになった。2年前にはなかった光景だと気づき、ひろばの親子たちにもいい形で保育の影響が出ているのだなと思った。

6点目は保育の質の向上について。昨年改めて感じたのは養護の大切さだ。信頼できる人との絆を結ぶことで、ありのままの自分を出してくつろげる。甘えたいときに甘えられることは、全ての育ちの土台になるということを感じた。一人ひとりの違い、家庭の状況に応じたきめ細かな配慮、あるいは自分たちが当たり前だと思っていた価値観の見直しを迫られ試行錯誤したことは、質の向上につながっていると思う。

・3事業（子育てひろば、一時預かり、小規模保育）の連携

すすく泉独自の災害マニュアルが完成した。災害時のひろばの利用についても、ママ部活などの利用者の声を聞きながら話し合っていて考えていきたいと思っている。

小規模、一時預かりの保育スタッフ間の理解をさらに深めるため、「交換留学」を始めた。定期的実施したいと思っている。5月の10連休中のうち平日である2日間、保育の

一時預かりを実施した。このときは特に一時預かりと小規模保育のスタッフが協力しながら実施できて良かった。

(今後の見通しについて)

まずひろばについては、初めての試みとして、8月末にひろばで「保育コンシェルジュによる相談会」を実施する。

また、市内の子育てひろば拠点と連携し、見学会をはじめている。

成蹊大学のボランティアさんにつながったので、今年はボランティアさんも入れていきたいなと思っている。

市内の公立・私立3校の職業体験の受け入れも行う。

スタッフの質の向上については研修を重ねていく。多方面での専門性を高めていくために、保育士だけでなく早期発達支援士講座を受けているスタッフがいる。

小規模保育については、保育の質の向上のために研修の計画を立てている。具体的には3園合同研修。今年度は井桁容子先生に4月に来ていただいて、「見えないものに目を注ぐ」「子どもの心の動きや育ちを物語る」という研修を行い、実践したうえで、最後1月にもう一度お話を聞くというような段取りでやっていく。

アドバイザーの篠木理恵先生による、現場視察と対談は10回開催する。継続して子どもの姿を追って、支援につなげたいと思っている。

園内研修として、河邊貴子先生の現場視察と研修がある。子どもの姿の読み取りからプランに向けていくまでのところの研修を積み重ねる予定。

園内の年間を通しての研修テーマとして「安定と自己表現」を設定している。昨年度の反省に「安定する」ことがすごく大事だという気づきがあったからだ。安定して自己表現している姿を読み取って、各々が事例を持ち寄ってそれを検討していくことを、井桁先生の研修を受けて実現していきたい。

外部研修としてはキャリアアップ研修を実施する。幼児保育、障害児保育の研修に行くスタッフがいる。その他、各自で学びたい内容の研修を受けるときに助成金を出している。保育士資格を取得できそうな人がいることも報告事項である。

ひとりひとりの子どもの多様性を尊重すること、幸せな人になるために私たちができることを考え、きめ細かい配慮ができるよう考えていきたい。

(平成30年度第1回・第2回(プロポーザル)委員会意見への対応状況について)

まず、保育所の出口が1か所しかなかったことについてだが、工事は終了し出入り口が完成した。公園にデッキからそのまま出られるようになった。課題としては、簡単に出ることができるということは簡単に入ることができるということ。外側からは開けられない状況をどうやって作るかというハード面の工夫が必要だと思っている。

一時預かりのシフト担当の負担が大きいことについては、スタッフと話し合いを重ねている。予約に対する丁寧なシフトの組み方は続けたいが、誰もが組めるような簡単なシステムの構築を進めている。多くのスタッフがシフトを組むことができれば、忙しい時に交代できる。5月から担当を二人交代したが、問題なくシフトを組んでいる。1週間のうち1つの曜日を担当にしており、これからも特定の人だけに負担がかかるということが無いようにしていきたい。保育の人材確保については、昨年2名の応募があったが、条件が合わないということで他の施設に決まってしまった。常勤を雇うということは、安定して長く続けられるという観点から、5年ごとのプロポーザルが不利である。条件の合う方がいないのが現状だ。

(事前質問に対する回答)

まず、防災対策・不審者対応については先ほどの報告の通り。

会計について、監査は総会の前に行っている。理事会報告の為に月次の決算をして報告する一方、データを会計会社に送り、複式簿記によりデータを作っていただき、最終的には勘定元台帳をもらって数値を合わせるという方法をとっている。数字の整合性はきちんと通るようにできている。

ひろばだよりについては先ほど報告した通り。

一時預かりについては、利用が増えた。お母さんの利用の仕方にバラエティが出てきた。父、祖母などから肯定的に捉えられて利用が始まるケースもあるように感じている。

職場体験については、赤ちゃんと遊んだりお母さんの話を聞くといった、中高生が子育てに触れることの意義を考えて、ひろばの特色を生かした体験ができるように考えている。

保育所体験、赤ちゃん体験について、6、7月は3組の方が体験された。9、10月にも募集する。体験された方からは、預けたいと思っていたがどういう場所かわからないという不安がなくなった、泣いている時にどうすればいいのかといった生の情報を得ることができた、等の声を聞くことができた。

<質疑応答>

以下の質疑応答が行われた。

【委員】

地域子育て応援マークは、今後どんな展開をしていくのか。

【いずみの会】

子ども政策課からの提案もあり、小さなチャームのほかに大きなシールも作った。賛同してくれたお店に貼ってもらうようアプローチしていく。ひろばネットワークの中から、マークの意味をお母さんたちに案内したらどうかと意見をいただいた。各ひろばの卓上に

置いてもらえるようなマークを作成した。また、シールを中学校にも配りたく、一中の先生と相談している。

【委員】

マークで、ひろば全体を盛り上げるということか。

【いずみの会】

そうだ。子育て支援の方に自由に使ってもらいたい。また、コミセンで賛同して下さる方にもつけてもらっている。

【委員】

スタッフの時給について聞きたい。時給 1000 円から 1050 円くらいだが、どうしても最低賃金の近くに留まっている。もう少し上げる方策はないのか。

【いずみの会】

実はここ 3 年間で最低賃金が上がっていることから、時給を上げてはいる。パートの利点は拘束時間がないことなので、自由な働き方ができる点で時給は抑えている。

【委員】

しかし、もっと時給を上げた方がいいのではないか。

【いずみの会】

フルタイムなど、時間を拘束するパートならもっと上げてもいいと思っている。最適な金額を考慮していきたい。

非常勤の有給休暇が法制化され、年間数 10 時間しか働いていない方にも有休を取ってもらわねばならず、達成できない場合 1 人 30 万円の罰金を払わねばならないのは厳しい。人数が少ないので休みを調節するのが難しい。時給の安さについてこれまでも指摘を受けているが、多く差し上げられないのが現実だ。

【委員】

最低時給が上がると、市の補助金額も上がっているのでは。

【事務局】

今年度の予算の金額は 140 万円程度増額している。

【委員】

時給が上がりすぎると扶養の範囲を超えないよう働く日数を減少させる人が増える。

シフト組み手当は時給にプラスしてついているのか。

【いずみの会】

そのとおり。シフト組み作業は、シフトに入っている間にはできない。そのため、時間外や家で組むしかない。また、預かりが発生したり、前日や当日にキャンセルが入ったりした時点でそれに対応してシフトを組まなければならないからだ。

【委員】

家で作業しても時給がつくわけではないのか。

【いずみの会】

時給はつかない。

【委員】

時給がつかないのはおかしいと思う。テレワークのようにできたらいいのではないか。もう一点、防災のことで、自治会や近隣の施設との連携はあるのか。

【いずみの会】

今のところ連携はないが、これから考えていきたい。ママ部活と地域の連携もできたらと思っている。

【委員】

一時預かりがこれだけ多いと、何かあった時に迎えに来られない人が多数発生するかもしれない。すすく泉だけの取り組みでは済まなくなることもあると思うので、町ぐるみで見守るような方向にも進めてもらいたいと思う。

【いずみの会】

武蔵野は自治会がほとんどない。災害が起きた時には集まろうという約束はある。町会も少ないが、連携することはできると思う。

【委員】

ひろばで取り組んでいるママ部活などは良いモデルになると思うので、すすく泉が中心になって発信していけたら良いのではと思う。

【委員】

防災会はどう動いているのか。

【いずみの会】

年に2回広報誌を出している。避難所は、震度5弱、台風などの災害時に開設する約束がある。その際は30人ほど会員がいるので、井之頭小学校に集まることになっている。

何かあった時、一時預かりの子どもを親が来るまで預かっていないといけない。また、ひろばを開いてもらって、授乳等ができたらいのこのという声がある。親が来るまで預かるという一番大事な機能と、お母さんたちがひろばに要望する機能をどう両立するか考えていく必要がある。災害の際、建物の安全点検ができていない状態で利用してはいけないと聞いている。しかし保育のほうはなるべく早く開きたい。そうするとひろばもくつついでいるので、ひろばも開けることになる。その際にお母さんたちがひろばを利用できるよう、検討をしているところだ。

【委員】

発災直後と、復興期と、フェーズに分けて開くのか。

【いずみの会】

まずは保育を開設することに力を注ぐ。それに付随してひろばが開くことになるが、その際にお母さんたちの自治でひろばを運営できるかどうか議論にも出ている。

【委員】

3.11のとき、保育園に地域の親子が来てしまうということがあった。そのように、不安な方が訪れることもあるのかなと思う。

【副委員長】

評価と反省のところではスロープ等の課題について触れられているが、見通しのところに記載がない。どのようにしていこうと思っているのか。

【いずみの会】

スロープの所は、8月中に市が防護柵を作ってくれる。スロープに屋根がないことについては、予算の関係でもう一度申請してくれているところだ。

【委員】

見通しのところは、課題を踏まえて記載してほしい。

もう1点、赤十字保育園との具体的な連携内容を教えてほしい。

【いずみの会】

連携の内容は大まかに3つ。遊園地ごっこに呼んでいただいていること、砂場や園庭を開放していただけて遊ばせてもらうこと、赤十字が主催している研修をスタッフが受けることだ。

【委員】

講師を呼んでいるようだが、謝礼の金額はどうか。

【いずみの会】

謝礼は相当少ないのが現実だ。

【委員】

研修費に入っているのか。

【いずみの会】

そうだ。金額によっては、連携園と一緒に開催している。

【委員】

保育士がどこかに研修に行く時のお金も含まれているのか。

【いずみの会】

含まれている。

【委員】

その時の人件費については、人件費から出ているのか。

【いずみの会】

そうだ。

【委員】

卒園児の入園の連携はどうなっているのか。

【いずみの会】

枠がないので、特にない。

【委員】

自分で保活するということか。

【いずみの会】

そうだ。小規模園卒園者に点数が加算されている。今のところ卒園児はどこかに入っている。

【委員】

認可保育所と小規模との連携が課題だ。

※NPO法人いずみの会が退場

<審議>

【委員長】

それでは審議を始めたいと思う。適切な運営が実施されているかについてはどうか。

【委員】

頑張っていると思う。

【委員長】

何か必要な意見はあるか。

【委員】

事務局はいずみの会と定期的に打ち合わせをしていると思うが、何かあるか。

【事務局】

防災の件はご相談いただいている。子育てひろばの拠点が市内に8か所あり、それぞれに課題があるので、検討を進めていく予定だ。

【委員】

市全体の課題だ。

【事務局】

スロープの屋根については、去年予算を要求したが、認められなかった。

【委員】

外部の講師に適切な謝礼を払ってもらいたい。お金がないのか。

【委員】

80万円くらい余っていたから出せないことはないと思う。

【委員】

沢山とは言わなくても、適切な謝礼は払ってほしい。年間7万円は少なすぎる。

【委員】

他施設と連携して開催しているから、安く済んでいるところもあるのかもしれない。ご好意で来ていただいているところもあるだろう。

【委員長】

労働に対する正当な対価を支払うよう、検討していく必要があるだろう。

【委員】

研修について、実態は把握しているのか。

【事務局】

詳細までは把握していない。

【委員】

年間の研修費が7万円というのは安すぎると思うが、何にいくらか把握しているか。

【事務局】

何時間に対していくらかは把握していない。

【委員長】

研修費に関して、外部講師に対する適切な謝礼を払うよう検討する件については、市の方にお任せするという事にさせていただく。

今回は、意見は付けないということにする。

3 閉会